

編集後記―教育の真の魅力、奥深さと出会うために…

「『楽しく深い学び』を創る国語科授業研究会」の研究誌を編集しここに刊行することができます。皆様の教育にかける情熱とあたたかい思い、御協力の賜物です。本当にありがとうございます。

希望と誇り、教師としての責任を持って教育の未来を語る、子どもたちの在り方を語る、批評的・創造的な御実践とともに協議し深める…、私にとっても毎回、発見のある大変楽しい研究会でした。

私が申し上げるのは僭越ですが、全体を読んでいただく各原稿内容や実践提案、評価、記載の在り方等、いろいろとお気づきのことでもあるかと思えます。これは私がいつも思っていることの一つですが…教育の本質はいつも、いつでも、日々子ども達の学びや笑顔、葛藤や迷い、決意や意欲等の中に、つまり教育現場にこそあります。

優れた研究実践論文をまとめ、国際的・全国的学会等に寄与することも教員には重要ですが、日々の実践でこそ勝負する気概と覚悟を…、魂のこもった本当の意味での教育を行うための日々の精進を（学び続ける教員）忘れてはいけないと思えます。そのためには「見えないもの、聞こえないもの…」の奥深さへの謙虚さを持ち、真実を追究する批評精神を常に自己に向けておくことが必要です。

ここに書かれた論文や御提言の言説は諸先生方の日々の闘い、葛藤の、ごく一部、一端をおまとめいただきました。丁寧に読ませていただくと御一人御一人の御人柄や発想、現在の課題意識等が大変良く出ていると私は思います。まさに、「創造的でアクティブな、深い学びを創る」一つのステップになっていると拝読いたしました。

研究誌として形にする時、全国的な意味で何が、どの程度貢献できるか。提案・実践としてどこがどう新しいか…もちろん大切でしょう（私見では、全国的にも価値ある御論文や御提案も多々あります）。でも、諸先生方が御多忙のなか、このように書いてまとめて下さったことにこそ実は重要な意味があると、私は思います。

副代表（編集委員長）・森和久先生の様々な御配慮と御尽力で、この度は名古屋の諸先生方と一緒に、また私の教え子の諸先生方とも研究会を持つことができました。「楽しく深い学び（人間性に向う価値ある学び）を創る」をキーワードに、次世代型（二世紀型の）言語教育の本質、次期学習指導要領の方向（資質・能力育成）等も見据えて言葉をめぐる教育の在り方、実践を語る会を持つことができましたことをありがたく思っております。

いつも過剰で空転しているような私ですので、研究会を通じて森先生のぶれない御判断の確かさ、優しい御人柄と優れたバランス感覚、過不足のない表現力等にも多々、学ぶ点がありました。

編集にあたり副編集委員長として左近妙子・室賀美紀先生には多大の御負担、御迷惑をおかけいたしました。会場の確保、研究会の運営だけでなく御校務で連日御多忙ななか、細かいことも誠実に直ぐに御対応下さったこと、心から御礼を申し上げます。

また、原稿の字詰りや形式モデル等で御協力いただいた吉川和良先生、明るく希望を感じさせる表紙・裏表紙のデザインを作成下さったデザイナー「ねこポップ」様、そして、最後になり恐縮ですが多くの御仕事を抱えながら私どもの、まことにささやかなこの研究誌刊行の意義を御理解下さり、御支え御協力下さった余島編集事務所代表・余島満彦様に、記して感謝を申し上げます。

二〇一七年三月一二日

愛知教育大学教職大学院 佐藤洋一